



平成 19 年 5 月 22 日

各 位

横浜市西区みなとみらい 2 丁目 2 番 1 号
株 式 会 社 シ ス テ ム プ ロ
代表取締役社長 逸 見 愛 親
(コード番号: 2317 東証第一部)
問い合わせ先 取締役管理本部長 国 分 靖 哲
電 話 番 号 0 4 5 (6 4 0) 1 4 0 1 (代)
U R L <http://www.systempro.co.jp>

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 18 年 12 月 7 日の決算発表時に公表いたしました平成 19 年 10 月期 (平成 18 年 11 月 1 日 ~ 平成 19 年 10 月 31 日) の業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 19 年 10 月期中間期の業績予想の修正

(1) 個別 (平成 18 年 11 月 1 日 ~ 平成 19 年 4 月 30 日)

(単位: 百万円、%)

	売 上 高	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前 回 発 表 予 想 (平成 18 年 12 月 7 日発表) (A)	3,180	533	307
今 回 修 正 予 想 (B)	3,196	608	324
増 減 額 (B - A)	16	75	17
増 減 率 (%)	0.5	14.1	5.5
(ご参考) 前期実績 (平成 18 年 10 月中間期)	2,400	402	212

(2) 連結 (平成 18 年 11 月 1 日 ~ 平成 19 年 4 月 30 日)

(単位: 百万円、%)

	売 上 高	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前 回 発 表 予 想 (平成 18 年 12 月 7 日発表) (A)	3,615	560	319
今 回 修 正 予 想 (B)	3,665	691	364
増 減 額 (B - A)	50	131	45
増 減 率 (%)	1.4	23.4	14.1
(ご参考) 前期実績 (平成 18 年 10 月中間期)	2,618	406	254

上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

2. 平成19年10月期(通期)の業績予想の修正

(1) 個別(平成18年11月1日~平成19年10月31日)

(単位:百万円、%)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成18年12月7日発表)	7,011	1,250	723
今回修正予想(B)	7,103	1,341	748
増減額(B-A)	92	91	25
増減率(%)	1.3	7.3	3.5
(ご参考) 前期実績(平成18年10月期)	5,239	929	527

(参考) 1株当たり予想当期純利益(通期) 3,238円10銭

(2) 連結(平成18年11月1日~平成19年10月31日)

(単位:百万円、%)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成18年12月7日発表)	8,026	1,443	855
今回修正予想(B)	8,050	1,450	780
増減額(B-A)	24	7	75
増減率(%)	0.3	0.5	8.8
(ご参考) 前期実績(平成18年10月期)	5,917	967	602

(参考) 1株当たり予想当期純利益(通期) 3,376円62銭

3. 修正の理由

(1) 中間期個別業績予想の修正理由

当社個別につきまして、前期から引き続き番号ポータビリティ(継続)制度開始に伴う移動体通信業界各社の新サービス拡充・新機種投入に伴い旺盛な開発等の需要が続いており、高度な専門知識を要する携帯電話端末の設計・開発・品質検証業務を得意とするモバイルネットワーク事業において、各工程における業務のパッケージ化により生産性の向上と業務の効率化を図り、当初利益率を上回る結果となりました。

これらにより中間期個別業績は、前回公表いたしました業績予想に対し上回る見通しとなりました。

(2) 中間期連結業績予想の修正理由

当社グループ(当社及び当社の関係会社)につきましては、連結子会社である株式会社フラグシップは生産性の向上を図り当初計画を上回り、株式会社ProVisionにおきましても、携帯電話の品質検証業務が当初計画を上回る受注となりました。また、持分法適用関連会社の北洋情報システム株式会社が携帯電話の品質検証業務及び開発業務の高採算な受注により当初計画を大幅に上回る結果となりました。

これらにより中間期連結業績は、前回公表いたしました業績予想に対し上回る見通しとなりました。

上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

(3) 通期個別業績予想の修正理由

通期におきましては、モバイルネットワーク事業において、当社の得意とする品質検証業務が引き続き旺盛な受注状況であり、更なる生産性の向上と業務の効率化により、収益の向上を図ってまいります。また、ネットワークソリューション事業においては、より収益性の高いエンドユーザーからの一括案件受注を目指してまいります。

これらにより、売上高、経常利益、当期純利益それぞれ前回公表いたしました業績予想を上回る見通しのため、上記の通り業績予想を修正するものであります。

(4) 通期連結業績予想の修正理由

連結業績につきましては、連結子会社である株式会社フラグシップは引き続き生産性の向上を図り、株式会社 ProVision におきましても、引き続き品質検証業務が順調に推移する見通しであります。しかしながら、当連結会計年度より持分法適用関連会社となったカテナ株式会社におけるのれん相当額の償却にかかる営業外費用の発生並びに他の持分法適用関連会社の計画修正により、上記の通り業績予想を修正するものであります。

なお、カテナ株式会社を持分法適用関連会社にしたことによる平成 19 年 10 月期における影響額は営業外費用として 23 百万円を見込んでおります。

また、持分法適用関連会社において、当社からの役員派遣等により今後シナジー効果の創出が見込まれます。具体的になり次第、速やかに公表いたします。

以上